

学習指導要領		都立鷺宮高校 学カスタンダード
(1) 世界史への扉	<p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<p>世界史を学習するに当たって、人間の歴史が自然環境と密接に関わってきたことを一学年で学習した地理を踏まえた上で考察する。また、身近な事例に触れながら、人・もの・文化が諸地域で交流されてきたことを知り、歴史への関心を高める。</p> <p>人間の歴史が、自然環境への働きかけの歴史であると同時に、文明の発達が環境破壊ともつながることを知る。地震など、日本の災害についても学習する。</p> <p>日本と諸地域が、相互の交流で豊かになってきた歴史を考察、世界とのつながりを学ぶ。</p> <p>砂糖や紅茶、コーヒーなど身近な食物を取り上げ、そのような食品が世界にいかにかまみ消費されてきたか、日常生活からも世界の歴史がとらえられることを学習する。</p>
(2) 諸地域世界の形成	<p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>古代の文明が大河のほとりに形成されるという共通点をもつのはなぜか、ということ考察する。治水・灌漑のため統治権力がうまれたことを理解し、おもな古代文明とその遺跡を指摘できるようにする。</p> <p>西アジアのオリエント世界と、オリエントの影響を受けた地中海世界の、風土の特色を理解し、両地域に、異なる文化・歴史が形成されたことを学習する。</p> <p>西アジアは、乾燥した風土が特徴で、大河の治水・灌漑に必要な統治権力がうまれた一方、地中海世界が、大河にめぐまれず、小都市国家が誕生、ギリシアに民主政が、ローマに共和政が生まれたことを理解する。ヨーロッパ世界に大きな影響を与えた、ユダヤ教・キリスト教について学習する。</p>

学習指導要領		都立鷺宮高校 学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p>	<p>インダス文明、つづく古代インドの諸王朝で、多様でまた厳しい自然環境の中、仏教やヒンドゥー教といった、現在にいたるまで社会に影響を与えつづける宗教・思想が生まれたことを学習する。また、東南アジアが海を通じ、諸地域と豊かな交流をつづけてきたことを理解する。</p> <p>中国で、黄河流域に都市がおこり、都市を統合する王朝がうまれ華北を支配していく過程を学習する。その中で、儒教などの新しい思想が生まれ、やがて朝鮮半島、日本など東アジアへと伝わり、仏教とともに社会・歴史に大きな影響を与えたことを理解する。</p> <p>2年次、課題として「世界史新聞」の作成をおこなう。自分で選んだ人物や事件を調べ、歴史的な意義を考察、表現する力を身につける。</p>	
<p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p>	<p>7世紀、ユダヤ教・キリスト教の影響を受けたイスラーム教がアラビア半島にうまれ、わずか1世紀のあいだに、イベリア半島から中央アジアに広まり、諸地域がイスラーム化されていった過程を把握し、それはなぜか、イスラーム教の特色を考察する。</p>	

学習指導要領		都立鷺宮高校 学カスタンダード
(4) 諸地域世界の結合と変容	<p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p>	<p>ローマ帝国の伝統を引き継いだビザンツ帝国の中央集権的な支配と、ゲルマン民族・ノルマンの移動により混乱し、荘園制を発達させ、封建社会をうみだした西ヨーロッパ世界を学習し、対比する。その時、キリスト教が果たした役割を考察する。</p>
	<p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p>	<p>中国が、北部や西北部にうまれた勢力の圧迫を受ける過程、また13世紀にモンゴル部族がユーラシアの大半をおおう大帝国を建設するまでを学習し、東アジアからユーラシア大陸の全域で、交流が活発化したことを理解する。</p>
	<p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p>	<p>資料集を活用し、諸地域世界の接触や交流などに着目する。</p>
	<p>アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p>	<p>16世紀が「世界の一体化」の始まりと言われる理由について考察する。ユーラシア大陸と交流をもたなかったアメリカ大陸が、大航海時代を経て、ヨーロッパの交易網に組み入れられたことにより、人・ものの交流が世界規模へと拡大したことを理解する。</p>
	<p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p>	<p>中国の明朝、中央アジア・西アジアのティムール朝、イランのサファヴィー朝、インドのムガル帝国と、アジアに豊かな文明が並び立ったこと、やがてそのアジアの富を求めてヨーロッパの交易活動が活発化する過程を学習する。</p>
	<p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>ルネサンス、宗教改革を経て、教皇権が衰退、王権による主権国家体制が成立する過程と、王権の保護のもと、世界各地へ交易が広がっていったことを学習する。</p>

学習指導要領		都立鷺宮高校 学カスタンダード
<p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>(5) 地球世界の到来 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>フランス革命、アメリカ諸国の独立など、環大西洋革命を学習し、絶対王政が動揺、市民が主権を獲得し、革命を主導した有産市民層により、資本主義が発達していく過程を理解する。その際、産業革命による機械化が社会にもたらした影響の大きさを考察する。</p> <p>ヨーロッパ諸国のアジア進出が、19世紀以降の植民地化を準備した過程を理解する。</p> <p>資料集を用い、地図や図版、グラフの読み取りなどの技能を習得する。</p> <p>なぜ、人類が第一次大戦、第二次大戦というふたつの世界規模の戦争に直面せざるを得なかったのか、経済面、社会面などから多角的に学習し、考察する。</p> <p>「世界の一体化」がヨーロッパ優位の構造をうみ、帝国主義と呼ばれる時代に、アジアやアフリカ、ラテンアメリカ諸地域が植民地化されていった過程を学習する。そのような中で、明治維新を経て近代化した日本が、どのように新しい価値観をうみだしていったのかを考察する。</p>	

学習指導要領	都立鷺宮高校 学カスタンダード
<p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p> <p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>第一次大戦の勃発とその経過、ロシア革命と社会主義国家の誕生、戦間期、特にドイツにおける経済の混乱、全体主義の台頭、世界恐慌と第二次大戦の勃発など、激動の20世紀前半について詳しく学習する。経済の理解が欠かせない箇所であり、資本主義・社会主義という用語を説明できるようにする。</p> <p>第二次世界大戦後、米ソ間で冷戦が勃発し、世界が両陣営に分かれて対立した過程を学習する。対立が、東欧や中国、キューバ、ベトナムなどへ、世界的な広がりを見せるので、資料集を活用し、地図を読み取れるようにする。</p> <p>今も続く地域紛争、宗教的な対立、核、経済格差など、21世紀の世界が抱える諸問題について学習する。特に、唯一の被爆国である日本の歴史を踏まえ、核について考察する。</p>